

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年12月26日発行 No.93

『彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。』

(マタイによる福音書 2:9~11)

<色々あった2018年…。お互いの働きを称え、その繋がりを覚える「忘年会」を開催!!>

クリスマスも終わり 2018年も残すところあと僅かとなりましたが、そんな12月の夕べに教職員の忘年会が新神戸のANAクラウンホテルで行われました!! 今年創立50周年を迎えたKIU、その一年を振り返ると本当に慌ただしかったように感じられますが、その中で多くのつながりや支えを覚えることができました。本当に感謝いたします。このエネルギーを新しい年2019年を歩み出す力に変えていきたいですね!! 皆さんお疲れ様でした!!



会場は新神戸 ANA クラウンホテル



抜群の司会業を見せる山口先生



2018年の働きを労う下村学長



「お疲れ様でした!!カンパ〜イ!!」



新入会員の紹介も行われました



ビンゴプレゼンターは中越先生



ホテル宿泊券をゲーーーーーット!!



1年越しのビンゴを喜ばれる魚住先生



最後は近藤先生の祈りで締める

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

12月17日(月) テーマ:「美ら海に響く叫び」

野間 光顕(チャプレン)

先週末、仕事で沖縄を訪れた。真冬でも20度を超す温かさに驚かされたが、更に熱を帯びていたのが名護市辺野古の存在だった。エメラルドグリーンの美しい海には天然記念物のジュゴンや珍しいサンゴが生息している。しかしここに巨大な米軍基地を建設する工事が強硬的に進められている。前日には真っ赤な土砂が海に投入され、その日も多くの怒りの声が集まっていた。私は、沖縄が70年以上抱え続けて来た痛みと悲しみ、そして目の大きな矛盾に胸が締め付けられる思いがした。この時代に真の平和を作る道は、最新鋭の武器で相手を威嚇するような行いの中には存在しない。今年を振り返る時、人の命が傷つけられる悲しいニュースが飛び交ったが、そんな時だからこそ、私たちは時代を超えて語り継がれ、多くの人に生きる希望を与え続けて来た真理の言葉を学び、連帯を深めて行く必要があるのではないだろうか?

12月18日(火)

※この日は音楽礼拝!! オルガニストの伊藤純子先生の素敵な演奏に耳と心を傾けました。次回は1月の予定です。

12月19日(水) テーマ:「十字架を前にして」～命と平和～ 石原 正彦(キリスト教礼拝-主務)

クリスマスを目前にして、最近耳にした2つの大きな事件が胸に留まった。1つ目はゴーン元会長が逮捕されたニュースだ。業績をV字回復させたその手腕は周知が認める所だが、その内容は徹底したコストカットとリストラ、つまり社員や下請けからの搾取であったと言えないだろうか? また2つ目のニュースが東名高速あおり運転の判決だ。容疑者には懲役18年という判決が出されたが、この期に及んで自身の結婚に言及する姿勢に耳を疑った。以上2つの事件の根底に通じるのは身勝手な自己中心だ。聖書はこのような肉の思いを厳しく断罪し、一方、相手を想う霊の働きを「命と平和」と表現する。この時こそ自らの心の姿勢を正したい。

12月20日(木) テーマ:「苦境の中の信念」～もしあなたが突然に身を拘束されたら～ 宮本 明(リハビリテーション学部)

今年の4月に小さな口論が発端で大変な重荷を背負い込む事となった。今まで当たり前と思っていた日常の生活が急に変化する中で、自分はどうなるのか…と大きな不安を覚えた。そんな苦しみの中で自分を支えてくれる存在の大きさを強く感じた。特に思い出したのがクリスチャンであった祖母の事だ。祖母が話してくれたキリストの物語を思い出す時、同時に現在自分が属している神戸国際大学の建学精神「神を恐れ 人を恐れず 人に仕えよ」の意味を改めて深く考えさせられた。神への祈りが自然に出てきて、心の重荷の全てを打ち明けている自分がいた。今日の聖書の言葉Iコリント10:13には「神は試練に耐えられるよう逃れの道をも備えて下さる」と記されている。ここに集うみんなもぜひ見えない神との繋がりを感じて欲しい。

12月21日(金) テーマ:「メッセージ フロム Queen」 野間 光顕(チャプレン)

今、一本の映画「ボヘミアンラプソディ」が日本社会を席卷している。伝説のロックバンド「Queen」、そのリードボーカル:フレディ・マーキュリーの歩みをリアルの映像化したものだが、彼らの音楽は様々な批判を受けながらも常に新しいものを求めて変化する。フレディ自身も、生い立ちやコンプレックスを力に変え、弱さを切り捨て強さに執着する社会に対してメッセージを送り続ける。その姿は、そのままイエスの生き様にも通じるものがあるように感じる。クリスマスが近づいているが、この物語もまた、社会的に弱く小さくされている存在から始まる。今日が2018年最後の昼礼拝。この一年も、時間にしてわずか15分のこの小さな集いをそれぞれが大切に下さった事に感謝しつつ、KIUに連なる一人一人の上にクリスマスの祝福が豊かにあるよう心から祈りたい。冬休み、ぜひ「ボヘミアンラプソディ」を観てね!! (文責:野間 光顕)